

ビーだま

ビーだまのように、キラリと光る一冊を

2021年1月～12月に発行された本の中から、とくにおすすめの本を紹介します

<編集・発行> 富山市立図書館 富山市西町5番1号
電話 076-461-3200

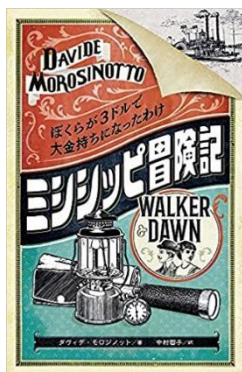
令和4年4月23日発行（年1回発行）

ミシシッピ冒険記 ぼくらが3ドルで大金持ちになったわけ

ダヴィデ・モロジノット／著 中村智子／訳 岩崎書店

1904年、アメリカ。テ・トワと3人の仲間は、偶然手に入れた3ドルで銃を買おうと通信販売で申し込む。ところが届いたのは壊れた懐中時計かいちゆうだった。がっかりする4人だが、時計を狙う男に襲われ、その価値に気づく。テ・トワたちは大金を手に入れようと、時計の行方を追う通販会社を目指して2,000 kmに及ぶ旅に出た。

一行は、蒸気船で川を遡りさかのぼ、列車に不正乗車して進むが、目的地を前に警察に捕まってしまう。



セカイを科学せよ！

安田夏菜／著 講談社



目立ちたくないロシア系ハーフのミハイルは、科学部電脳班でのゆるくて穏やかな部活に満足している。そこへ「蟲」が大好きな転校生、黒人系ハーフのアビゲイル葉奈が乗り込んできた。部員が啞然とする中、生物班を立ち上げ、嬉々としてボウフラやカナヘビを飼い、学校中の注目を集める。

飼育についてPTAからクレームを受けた学校は、科学的な成果を出さなければ生物班の活動は停止だと言い出す。

黄色い夏の日

高樓方子／著 木村彩子／画 福音館書店

ある夏の日、景介は、キンポウゲの黄色い花が咲き乱れる洋館の老婦人、小谷津さんと知り合った。不思議なことに小谷津さんがうたた寝をするたび、景介は戦争中の昭和に迷い込む。そこで出会ったゆりあという気まぐれな少女に強く惹かれて何度か会ううち、景介は次第にやつれ始めた。

幼なじみの晶子は、何かに取りつかれた様子の景介を心配し、美しい洋館で何が起きているか探ろうとする。



はなの街オペラ

森川成美／作 坂本ヒメミ／画 井上征剛／監修・解説 くもん出版



大正時代、14歳のはなは、東京上野にある作曲家の家に奉公にあがった。聞いた歌を一度で覚える特技を買われ、お嬢さんの歌のレッスンに付き添ううち、西洋音楽に親しんでいく。ある時、奉公先と反目する劇団のオペラを見に行ったはなは、急病の歌手に代わり、強引に舞台に立たされる。裏切りとみなされ奉公先に戻れなくなった上、実家からも勘当されてしまうが、歌手として人気が高まっていく。

赤い糸でむすばれた姉妹

キャロル・アントワネット・ピーコック／作 日当陽子／訳 フレーベル館



ウェンは、中国の養護施設からアメリカの家庭に養子として引き取られた。自分だけの部屋、たくさんの服や食べ物、自由な学校生活などアメリカの豊かさにウェンは驚く。加えて養親ようしんの温かい対応にもなじめずにいたが、やがて、自分と同じ施設にいた姉同然のシューリンもアメリカに呼びたいと願うようになる。しかしシューリンには、養子縁組の年齢制限である14歳の誕生日が迫っていた。

やしやじんがわ 夜叉神川

安東みきえ／著 田中千智／画 講談社

転校生の莓いちごは、級友のリョウを崇拜していた。ある夜、リョウの親友の奈津は、鬼をまつる神社の境内で、杉の木に何かを打ちつけている莓を見かける。その翌日、リョウが劇団のオーディションに合格したという知らせが入った。ライバルの子が突然の腹痛で欠席したからだという。

他に、釣った魚を残酷さばに捌く少年が川の主に報復される話など、夜叉神川の周辺で起きるちょっと怖い短編集。



パラゴンとレインボーマシン

ジラ・ベセル／作 三辺律子／訳 小学館



雨が降らなくなり、貴重な水をめぐって戦争が起きている近未来。ケンブリッジ大学で研究員だった伯父が謎の死をとげた。オーデンは母と共に伯父の家に引っ越し、級友のヴィヴィと隠された研究内容を探ろうとする。

やがて地下倉庫に眠るロボット〈パラゴン〉を発見し起動させた二人は、軍当局に追われる身となった。知性とユーモアを持つパラゴンは果たして殺人マシンなのか。

あしたの幸福

いとうみく／著 松倉香子／絵 理論社



父を事故で亡くした^{あまね}雨音は、赤ん坊のころに別れたきりの母と暮らすことになった。母は、臨機応変な対応が苦手な上に他人行儀な話し方をする。戸惑う雨音だったが、母が勤める洋食屋で出された料理に驚く。毎年、誕生日に父が用意してくれていたものと同じだったからだ。知らずに母の料理を食べていたことに雨音は涙する。妊娠していた父の恋人も加わり、3人の風変わりな共同生活が始まった。

タフィー

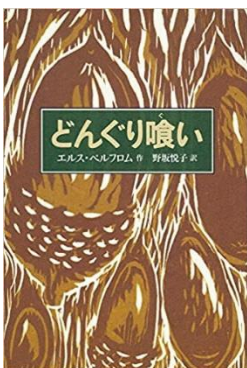
サラ・クロッサン／作 三辺律子／訳 岩波書店

顔を^{やけど}火傷したアリソンは、暴力をふるう父親から逃げ出した。偶然出会った認知症の老女マーラから昔の友人タフィーと勘違いされたことを利用し、アリソンは家に転がり込む。記憶が過去と現在を行き来するマーラ。タフィーになりきって共にダンスしたり、時には「誰だ」と怒鳴られたりして一緒に過ごすうちに、アリソンは自分に起きたことを打ち明けていた。詩の形で綴られた物語。



どんぐり喰い

エルス・ペルフロム／作 野坂悦子／訳 福音館書店



第二次世界大戦下、スペインに住むクロは、家族の暮らしを助けるため8歳で学校をやめ働いていた。金持ちからは、どんぐりまでも食べる貧しさを^{さげす}蔑まれるが、父から命じられたヤギ飼いや修道院での仕事に懸命に取り組む。やがてクロは、建築現場の職人に自ら声をかけ、見習いの仕事を手に入れた。他にも、危険な地域に商売に行くなど、人見知りだったクロは様々な仕事を通して成長していく。